― 特集 ―

金山校だからこそ

３回目となる模擬議会が開催され、高校生議員がまちづくりへの提言をまとめました。
下に一般質問の内容を抜粋して紹介していますが、ここまでの深い提案は「金山校だからこそ」。
活き活きと自信あふれる生徒の表情からは、地域に密着した金山校の真髄が見て取れます。

「私は金山町がよりよい町になることを願っています。そのために提案します――」。

新庄南高等学校金山校（※以下、金山校）の模擬選挙で選出された8名の高校生議員が12月20日、模擬議会で堂々と一般質問を行いました。高齢者の買い物支援、高規格道路整備を見据えた農業振興、SNSを活用した町のPR、若者に対する資格取得支援――。投げかけられた質問は、町の課題を的確に捉え、かつ高校生らしいフレッシュな意見ばかりです。それもそのはず、金山校では、地方自治・選挙の分野にカリキュラムの5倍の時間を充て、町の現状や課題について研究してきました。模擬議会を終え、「私たち一人一人が意見を持たなくてはいけないと思った」「金山がより豊かになる方法を考えていきたい」などと話す生徒も。一連の学習を通して、生徒たちは着実に成長しています。

「地域を知り、関わりを持つことが、社会全体への関心にも繋がる」と考え、地域密着型の教育を展開する金山校。模擬議会だけでなく「金山校だからこそ」できる取り組みは、たくさんあります。

① 松本　菜々海（ななみ）議員

② 佐藤　朱夏（あやか）議員

③ 長倉　心（こころ）議員

④ 伊藤　悠希（ゆうき）議員

⑤ 丹　弥生（ねお）議員

⑥ 梁田　庄吾（しょうご）議員

⑦ 荒沢　知弥（ともや）議員

⑧ 五十嵐　美春（みはる）議員

Q① 一人暮らしの高齢者が増えている。買い物に行く事が困難な高齢者にとって、品物を選ぶ喜びを感じてもらうことが大切だと思うが、どう考えるか。

A 実際に品物を見て、選んで購入することは、高齢者の方々にとって大きな楽しみや生きがいになっていると感じている。移動支援や同行支援で高齢者自身が直接商店に出向き、買い物ができるように、また、外出や買い物を通して地域と関わりを持って過ごせるような高齢者支援の体制づくりを考えていく。

Q② 将来的に高規格道路ができれば町づくりに活用できる。金山の美味しい野菜をより多く首都圏に届けられるようになると思うが、農業振興計画はあるか。

A 高規格道路の整備により、輸送時間の短縮や物流コストの削減など、様々なメリットが考えられる。町では現在、７品目の園芸作物を重点振興作物と位置付けて、農家の方々へ交付金を交付し、町の農作物の生産を後押ししている。高速交通網を利用して消費が拡大されれば、生産の拡大も図られるものと考えている。

Q③ 金山町の給食はとてもおいしく、金山校での給食提供に関して、賛成の生徒も多い。他の意見も総合すると弁当での給食提供がベストと考えるが、いかがか。

A 小中学校の給食の調理を行っている中で高校に提供する弁当だけを別工程で、限られた時間と場所で提供することは、現在の給食センターでは対応できないのが実状だ。食物アレルギーを抱えた生徒への対応も求められるほか、弁当の容器や残食の扱いなど、多くの課題があることから、現時点では弁当の提供は難しいと考える。

Q④ 白壁づくりの街並みは、金山校で学校生活を送っている私にとって誇り。しかし町には、適切に管理されていない空き家があると聞くが、中心部ではどうか。

A 令和元年12月１日現在、町全体では合計100軒、町中心部と言われる内町、七日町、十日町、羽場には合計27軒の空き家が所在している。所有者・管理人が不明確な場合や適正に管理されていない場合に登録される「空き家台帳」には、町全体で39軒が登録されており、その中でも危険な空き家として５軒を登録している。

Q⑤ 町内に屋外の遊具があまりない。たくさんの子どもたちに来てもらうためにも、金山川河川公園に電灯を増やすことや、遊具を設置することは可能か。

A 堤防まで水が来ることを想定している公園であることから、河川の性質上、電灯を設置するのは難しいと考える。遊具についても、河川増水時における安全面を第一に考慮する必要がある。具体的な提案があれば、利用頻度や必要性等を総合的に考慮しながら、施設を所管する山形県と協議をして、検討していく。

Q⑥ 人口減少を解消するために、移住者を増やしていくべき。対象世代の拡充や補助金制度、SNSの活用などが必要と考えるが、移住者を増やす対策はあるか。

A 町における人口減少は、推計よりも早いスピードで進行しているのが現状。首都圏での移住希望者向け相談会等に積極的に参加するほか、SNSを含めた様々な媒体による周知を充実していくことが肝要と考える。「かねやま暮らし体験住宅」を活用しながら、町への個別相談に対して、可能な限りニーズに応えていきたい。

Q⑦ 観光客の約42％がSNSを参考に旅行しているとのデータがある。若い世代から町を知ってもらうために、インスタグラムを活用することはできないか。

A 町情報システムのセキュリティ上、使用できるSNSが制限され、インスタグラムは取り入れることができない状況にある。行政では使用できないが、若い世代や外国人観光客への周知においては非常に効果的なツールだと考える。ぜひ皆さんご自身が、金山らしい「ハッシュタグ」を付けてインスタグラムを活用いただければ幸いだ。

Q⑧ 町では国家資格、技能検定取得者向けに資格取得支援を行っている。英検や簿記などに範囲を拡充し、高校生が資格を取得する場合も補助できないか。

A 就職や進学のために資格を取得することは、将来の目標を掲げて充実した学校生活を過ごせることにもつながり、金山校の魅力の一つにもなり得る。今後、補助対象とする資格や補助金の額など、制度内容について学校と十分な協議を行い、学習支援事業補助金の中に資格取得支援の分を組み入れる等できないか検討したい。

全員が何らかの役割を担う――これが金山校で学ぶ意味に

金山校は、昭和23年に金山高校として創設以来、特色ある地域教育を展開してきました。平成26年度に新庄南高校の分校としてキャンパス制を導入してからも、その伝統を継承。地元に根差した多くの人材を輩出しています。

しかし、人口減少により生徒の確保に苦慮し、令和元年度の入学生は15名。定員の半分の20名を下回っており、県立高校再編整備基本計画に基づき、新入生の募集が停止される可能性も示唆されました。しかし、金山校の存在は町の活力源であることに間違いありません。「1年でも長く存続してほしい――」。これは多くの町民の願いです。そのような地域の想いを汲む形で、国が地域振興の核として小規模校を捉え、その質の向上に取り組む方針を示しました。県教育委員会でも、募集停止に至るまでの基準を緩和し、各学校が魅力づくりに取り組む時間を設けようという動きも出てきました。

「金山校で学ぶ意味って何だろう」。生徒や先生にこの問いを投げかけると、たくさんの「金山校だからこそ」が。それこそが、金山校の魅力なのでしょう。

1_模擬議会では自作資料を駆使して一般質問　2_町側は担当課長が答弁。奥山心優（みゆう）議長も真剣な表情で聞き入る　3_高校生議員の９名　4_実際の投票箱を使って模擬選挙　5_緊張感漂う立会演説会

人のため、地域のために行動できる人間を育てる

新庄南高等学校金山校
社会科教諭　小野　洋二（ようじ）さん

平成27年以降、独自の方法で継続している模擬議会。模擬選挙とあわせて、生徒たちが町の現状や課題を知る良い機会となっています。

３回目となる今回は、事前に町役場の皆さんから政策やまちづくりなどについて聞きとり。理解度が深まった状態で模擬議会に臨むことができて、より具体的な提案ができたと感じています。農業振興の分野で例を挙げれば、「新たな農産物を生産したらどうか」ではなく「新たな農産物として里芋はどうか」と提案。他の高校でも似た取り組みはありますが、研究を重ね、ここまで掘り下げた学習を行っているのは、金山校だけだと思います。一連の学習を通して、生徒たちが「金山町でこんなに良い取り組みをしているんだ！」と気づいてくれた場面がありました。地域を知ることは、社会への関心に繋がります。

他にも金山校では、金山タイムやボランティア活動などを取り入れ、特色ある教育を展開しています。地域に密着した取り組みは、物怖じせず人前で話したり、相手の気持ちを考えられるコミュニケーション能力を育みます。３年生の進路は昨年末の時点で１００％達成。培われた社会性を評価していただいたと思っています。また、小規模校だからこその良さも。クラスや委員会活動など、ほとんど全員が役割を担います。金山校で初めて生徒会に所属する生徒も多く、最初は戸惑いますが、次第に自信をつけ楽しそうに活動しています。

ボランティア活動を続ける卒業生が多いと聞き、嬉しく感じています。地域との関わりが希薄になっている昨今、主体的に行動を起こすのは難しいこと。金山校での学校生活を通して、「人のため、地域のために役に立ちたい」と行動できる人間が確実に育っていると感じます。

金山校で経験できるたくさんの「初めて」は自分の成長に繋がります

生徒会長
柿崎　勇騎（ゆうき）さん（2年）

高校に入学してからたくさんの「初めて」を経験しています。生徒会活動もその一つです。人前にでることになかなか慣れず、あいさつなどは今でも少し緊張してしまいます。でも、これも金山校だから経験できることだと思うと、入学して良かったと思います。

昨年の７月に全国小規模校サミットに参加し、似たような環境で高校生活を送る全国の仲間と交流しました。また、金山を知らない人に町を紹介することで、「自分は金山が好きなんだ」ということを改めて実感。ずっと金山で暮らしたいと思っている自分にとって、地域と関わりながら学べる金山校は最高に成長できる場です。

小規模校サミットの様子

小さな高校だからこそ一人一人が責任を持っていろんなことにチャレンジ

生徒会副会長
佐藤　李咲（りさ）さん（2年）

模擬議会に向けた学習を通して学んだことは、町では本当にたくさんの施策を行っているということ。その分、町への提案は苦労しましたが、話し合いを重ねて高校生らしい考えを発表できました。地域のことをここまで研究できるのは、やっぱり金山校だからなのだと思います。

昨年私たちが行った台湾への修学旅行の費用も、町からの補助があったと学びました。台湾では、現地の高校生と交流する時間もあって、短い時間でしたが英語を学ぶ機会にもなりました。意気投合した子とは、SNSで繋がっており交流が続いています。修学旅行を通して感じた初めての海外は、忘れられない思い出となりました。

台湾の高校生とパシャリ